

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2002.6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 218

日本野鳥の会 埼玉県支部

石戸宿風信

岡安征也（北本市）

石戸宿は里山です。斜面林のある台地と入り組んだ谷地が特徴で、遊歩道も設けられています。10年ほど前に北本自然観察公園として整備され、自然学習センターも開設されました。『しらこぼと』の92年4月号と94年6月号に詳しい探鳥案内を載せました。当地での探鳥会が定例になってから10年余り、感じたことを折おり『石戸宿風信』に綴り、探鳥会で配布してきました。それも今回で43号になります。定例10周年を機に石戸宿を紹介させていただきます。

石戸宿の歴史

桜堤から西方を望む。はるか遠く秩父の山並みが連なり、丘陵地帯がそれに続き、眼下には荒川低地が広がっています。秩父中・古生層が地中深く潜りこみ、それを基盤として丘陵をつくる新第三期層、台地の洪積層、さらに低地の沖積層が乗っています。私たちはいま、関東平野に浮かぶ大宮台地の、西北端に立っているのです。

北里病院の建つ台地の一部は旧石器時代の遺跡で、周辺にもさまざまな遺跡が散在しています。お花見探鳥会で訪れる東光寺には、源範頼（蒲冠者）お手植えと伝えられる国指定天然記念物の蒲桜があります。戦国時代、松山城を攻めたてた武田軍に越後の上杉軍が対峙したのもこの地でのことです。

ヒトは自分たちが住みやすいように自然を改造してきました。自然が比較的良好な状態で残されている探鳥地は、史跡であることも多いと思います。マイフィールドを歴史的観点から見直してみませんか？

二千年前の鳥

昨年、江戸東京博物館で開催された世界遺



タマシギ（海老原美夫）

産ポンペイ展に行ってきました。イタリアの古代都市ポンペイは西暦79年、ベスビオ火山の突然の大噴火で街全体が、人も犬も家もすべて火山灰の下に埋もれてしまったのです。

遺跡の発掘が進むにつれ、さまざまなことがわかってきました。鳥を描いた壁画が残されていたことから、当時生息していた留鳥や渡り鳥の種類が明らかになりました。

ツバメ スズメ クロウタドリ コウライウグイス ナイチンゲール カケス モリバト ムシクイ クイナ カワラバト カササギ。

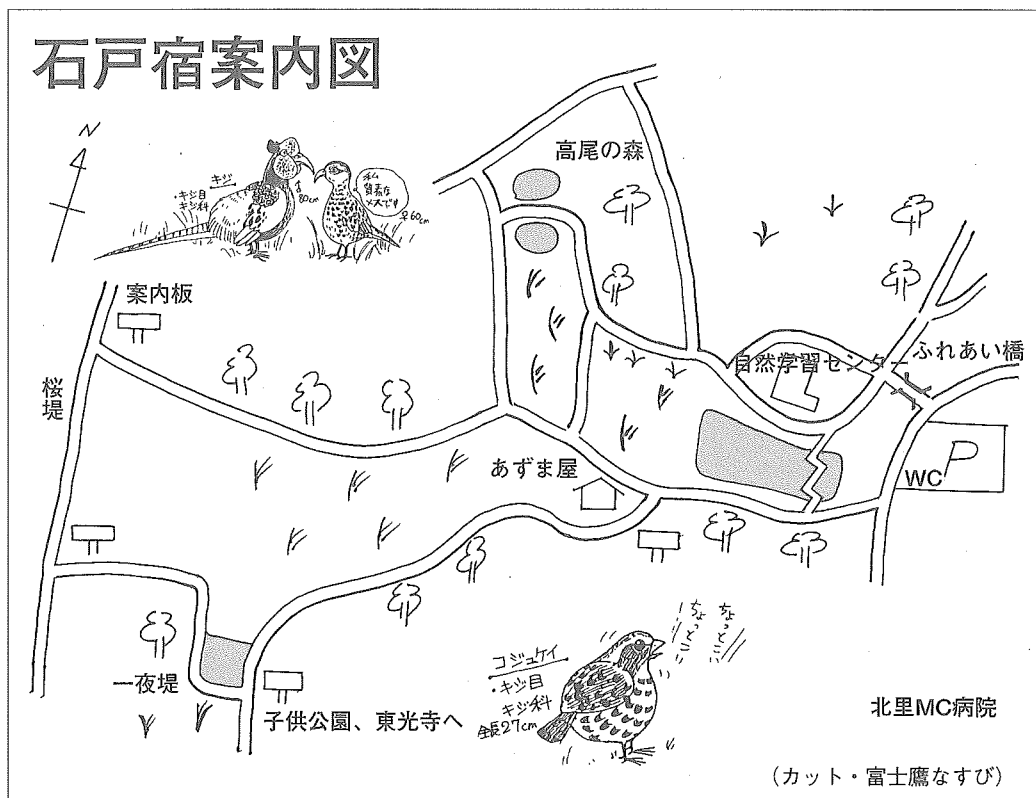
毎年同じ時期に、いつのまにか身の回りからいなくなる渡り鳥は、かつて、水中に潜り冬ごもりすると考えられていました。現在、ヨーロッパの鳥が地中海を渡る主要経路としては、ジブラルタル海峡、ボスポラス海峡、そしてこのイタリア半島経由のルートがあります。更なる解明が待たれます。

鳥の名前

子供のころ、お面をつけて突如ヒーローに変身した、そんな気分になったことはありませんか？ 役者が控えの間で装束を着け、心を静めて姿の前に立つ。それは役柄になりきるため自らに術をかける、まさにその瞬間に違いありません。ジョウビタキ（尉鷯）の尉とは、能や狂言に登場する翁の面のことで、彼を能役者に見立てたネーミングには心憎いほどの“粋”を感じさせられます。

このように和名の由来を調べてみるのもおもしろいと思います。さらに深く、英名や学名の起源を辿ると、洋の東西、その目のつけ所の違いもわかって興味倍増です。

石戸宿案内図



たとえば探鳥会で人気の高いカワセミですが、小さい鳥を意味するソビという言葉が訛り、セミまたはショウビンとなったとも、また、“河瀬見”起源とも言われます。学名にいう“アルケド”はギリシャ神話に由来するラテン語です。ケーユクスの妻アルキュオーネが自分の幸福な家庭をゼウスとヘラーのそれに比較したのを、神々が怒り、彼女をカワセミに、夫をアビにしてしまったというのです。なお、英名のコモン・キングフィシャーは、彼らの採餌法を漁に見立てたものでしょう。ちなみに、カッコウは、英名も鳴き声に由来し、クッカーですネ。

地名にまつわる話など

ウグイスのチャッ、チャッという笹鳴きがホーホケキョという美しいさえずりに変わると、本格的な春の到来です。

時は元禄、上野の東叡山の御門主が京都から鳴き声の美しいウグイスを取り寄せ、上野の森に放ったところ、そのあたりがウグイスの名所となり、鶯谷の地名が生まれたといひ

ます。

徳富蘆花の小説『不如帰』では、肺を病む浪子がヒロインです。「泣いて血を吐くホトトギス」。この鳥が口を開くと、なかは真っ赤で鳴き声も苦しそうです。正岡子規は咯血してホトトギスの句を作り、みずから「子規」と号しました。子規とはホトトギスのことです。さらに彼が創刊・主宰した雑誌の名も『ホトトギス』です。この鳥の初鳴きが聞かれた小石川の白山周辺は、かつて初音の里なる異名で呼ばれていました。

野鳥の生活

4月下旬、東南アジアから渡って来たばかりのオオヨシキリの雄は、ソングポストで鳴いたり侵入してきた雄を追い払ったりして、大忙しです。雌が遅れてやってくると、また大きな声で一所懸命さえずり、そして求愛行動を経てつがいになります。

その後、雌が巣造りをして産卵するまでの間、雄は静かにしていますが、抱卵が始まると、チャンス到来とばかりに、次の雌を獲得

するために、また激しくさえずり始めます。

一夫多妻の生起率は15%ほど、一夫五妻もあるといいます。繁殖期間中さえずり続ける不遇の雄もたいへんですが、もてる雄もつらい。あちこちにいるヒナたちにエサを運ぶ苦労、いやそれも子孫繁栄のためと自分に言い聞かせて励むとしても、横着なカッコウが産み落とした大食漢の面倒までも見ることにでもなったら！！こんな悲喜劇が葦原のなかで展開されているかもしれません。

野鳥の配偶システムの一端を紹介しましたが、彼らの行動の仕組みや機能、その発達と進化という視点から野鳥を見ることも必要でしょう。時には、じっと対象を観察してみる“テオリア”を提唱したいと思います。

人間と野鳥

私達の祖先は、鳥の行動から季節を知って農業に生かし、また、その採食行動から漁法を学んできました。そんな人と野鳥の関係にも変化が起きています。都市鳥研究会の報告を見てみましょう。

ツバメはわざわざ人の目につくような場所に巣を作ります。カラスなどに卵や巣をねらわれないように、ヒトをガードマンとして利用しているのでしょう。他方、我々も彼らを益鳥として大事にしてきました。いつのころからか、ヒトとツバメの間に信頼関係が築かれ、維持されてきたというわけです。

1985年の調査では皇居や東京駅を中心にした3km四方に、44個の巣が確認されました。5年後の1990年、以前あった巣は20個に半減し、かわって、本来は岸壁にコロニーをつくるイワツバメが増加しました。

これは東京のコンクリート化現象が進んだことを示唆しているように思われます。また都心では夜もネオンや街灯で明るいため、灯火を求めて虫がやってきます。その結果、ツバメの夜の蝶ならぬコウモリ化現象が起きているということです。

東京では、漂鳥であったヒヨドリが1970年代から留鳥になりました。ここ石戸宿では、コゲラが増加しているようです。林が管理されぬまま放置されたために、枯木が増加して



ケリ（外園たけの）

いることの表れであるように思われてなりません。環境変化を生物計という物差しで見るということも大切でしょう。

加速する生物の絶滅スピード

生物は地球環境の変化に応じて、ある種は絶滅し、また新しい種が誕生するということを繰り返してきました。例えば恐竜時代の生物は地球変動のサイクル、つまり千年に1種の割合で地球上から姿を消していきました。

マイヤースによれば、17～19世紀にかけては4年に1種、1900年には1年間に1種、75年には1年間に千種となり、80年代以降は1年になんと4万種以上が絶滅しているといえます。絶滅のスピードは恐竜時代の4千万倍にまで早まりました。

様々な理由が考えられますが、それらに共通するのは、人間の活動が彼らの生命を脅かしているということです。私達のライフスタイルを見直す時期に来ていると思われま

終わりに

マイフィールドに寄せる思いを綴った『風信』、実は、私の“鳥の楽しみ方”の紹介でもあるのです。参考になれば幸いです。

学習センターには、自然情報の掲示板、開所以来の出現鳥リスト、公園内の地図などもあります。石戸宿は設備も充実し、バスも通り便利になりました。ぜひお越しください。

忍者現わる！

陶山和良（さいたま市）

私の住む地区は、2階建て住宅が建ち並ぶ中にマンションが点在している。結構車や人通りが多い道路の脇に、幅、深さとも1mほどのコンクリートで固められた側溝が100mほど走り、金網のフェンスでガードされている。

ある日の午後、その金網フェンスの上に、黒い固まりが音もなく現われてとまった。

20秒ほどであったろうか、翼を少々つくりうと、身軽にヘドロのたまっている側溝の中におりた。太い足をゆっくり動かしながら、餌を漁るともなく、道路下の暗いトンネルになっている奥に入り込み、シルエットとなっていたはずんだ。

私と一緒にその様子を見ていた隣のマンションに住む小学1年生のK君とS君。「忍者だ！ スゲーー」

こんな住宅地の汚れたところへ来るなんて、ゴイサギ幼鳥の気まぐれな来訪がうれしくもあり可哀相でもあったが、救われたのは、「僕たちも野鳥の勉強をしよう」と言ってくれた子供たちがいたということであった。



ゴイサギ成鳥（山内 元）



シマアジ（松村禎夫）

小学校の総合的な学習の授業

橋口長和（春日部市）

昨年11月13日（火）春日部市立正善小学校5年生の45分間の授業で「環境と野鳥」について話をしたことは、本誌1月号の連絡帳欄ですすでにご報告しましたが、授業の組み立て方などについてもう少し詳しくご説明します。

まずメインテーマとしては、「食物連鎖」を考えました。次は45分間の授業の割り振りとして、教材集めです。

最初の5分間は導入部として、日本野鳥の会の歴史や事業の内容を分かりやすく説明するための原稿を作成しました。

次の15分間は、学校のまわりの環境と野鳥について話すことにして、「留鳥」「夏鳥」「冬鳥」の説明と、インターネットを利用して野鳥のイラストを用意しました。

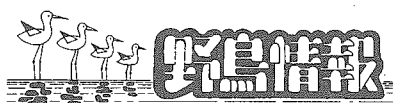
次はメインテーマの食物連鎖について20分間。食物連鎖の仕組みと生態系ピラミッドを模造紙に描いて準備。これもインターネットからデータや資料を収集しました。

最後の5分間は質問の時間、念のため、本部ネイチャースクールから、鳥のくちばしの模型も借りてきました。

小学校2年生の国語の教科書にアマサギの話が出てきます。そこでアマサギのイラストを用意して、「2年生の国語に出てきたこの鳥の名前は」と質問して、子供たちに授業に参加してもらうようにしました。

食物連鎖の仕組みについては、植物→虫→シジウカラ→ハイタカで説明し、3～4名の生徒に「海」「アフリカ」などのキーワードを与えて、食物連鎖を考えてもらいました。

今回の授業では、たった1時間の授業でも相当のパワーを使いました。毎日続けられている先生は大変だなど、実感しました。



岩槻市文化公園 ◇3月12日午前10時、ツバメ(大塚操)。◇3月17日、マヒワの群れ、ルリビタキ♀タイプ。元荒川でヒドリガモ約100羽。3月20日、河原でツバメ1羽が飛んでいた。3月24日、トラツグミ、マヒワ10羽以上(山田由紀子)。

岩槻市加倉5丁目 ◇3月14日、ツバメ1羽、自宅脇の水路の上を飛び回っていた(藤原寛治)。

岩槻市太田 ◇4月7日午前10時30分頃、実家の庭でシメ7羽。冬の間、ヒマワリの種やアワなどをまいていたところ、スズメ30羽程、カワラヒワ20羽程、ヒヨドリ5羽程、メジロ5羽程、シジュウカラ6羽程などがよく来ていた。今冬シメが初めて姿を現した。初めは、警戒心が強く1~2羽が物陰でゴソゴソしていたが、やがて慣れると、窓の前3m程の椅子に置いたカゴのヒマワリを独り占め。春めいた4月初め頃から数が増え、多いときには10羽程が追いかけて合ったり、飛び交っている。スゴイ!すでにクチバシも青灰色の夏羽になってきました(鈴木紀雄)。

岩槻市加倉4丁目 ◇4月8日、アオサギ1羽、上空を通過(藤原真理)。

白岡市太田新井 ◇3月12日午前9時30分頃車中より、トケン類(カッコウ科の鳥)の飛翔を見た(鈴木紀雄)。



ササゴイ(外園たけの)

蓮田市黒浜 ◇3月16日午後2時30分頃、国立東埼玉病院内の林でヤマシギが飛んだ。こげ茶色で大きく、タシギとは全く異なり、やはり居たことが確認できた。午後3時頃、上空でツミが舞っていた。4月2日午前9時頃、上沼の東約500mの水田地帯の畔でホオアカ1羽。4月9日午後12時30分頃、コアジサシ2羽、上沼を飛んでいた。どこで繁殖するのだろうか。自分としては今季初認。午後1時以降、国立東埼玉病院内でツミ♂1羽、腹の赤っぽいのが丸見え。上空を飛ぶオオタカ1羽、ハヤブサ1羽。ヤマガラ3羽が「シーシー」鳴きながら、木々の中を移動(鈴木紀雄)。

さいたま市岸町2丁目 ◇3月14日午後4時頃、自宅の脇の電線でツバメ2羽初認(江浪功)。

さいたま市下山口新田 ◇3月18日午後2時頃、コチドリ約10羽、ツバメ3羽。4月1日午後12時頃、サシバ1羽、上空を舞っていた(鈴木紀雄)。◇5月2日午前11時30分頃、芝川第一調整池でマガモ♂2羽。アシ原でオオヨシキリが盛んにさえずっていた(藤原寛治)。

さいたま市東大宮 ◇3月16日午前7時30分、ウグイスのさえずりを聞いた(新井浩)。

さいたま市日進町1丁目 ◇4月8日頃、センドタイムシクイ1羽、盛んにさえずっていた(森本國夫)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇4月9日午前8時、ピクニックの森でマヒワ約20羽(鈴木紀雄)。◇4月13日、三ッ池の傍のアシ原でコムドリ♂1羽♀2羽(藤澤洋子)。◇4月21日、大久保農耕地B区で水の入った田んぼでムナグロ146羽、オオタカ1羽。オオタカの出現でムナグロが一斉に飛び立った(藤野富代)。

さいたま市大崎 ◇4月18日午後3時頃、国昌寺付近でハヤブサ1羽、見沼田んぼの方から飛んできて、見沼代用水東縁の斜面林に突っ込んでいった。走行中の自分の車の前を通過していったので、すぐに停めて、引き返してみたら林に集まっていたカラス30~40羽の群れが、一斉に飛び上がって騒

いでいた(藤原寛治)。

川口市差間 ◇3月14日午後12時頃、芝川でツバメ初認(藤野富代)。

志木市 ◇4月14日、荒川沿いの田んぼでムナグロ7羽以上(藤澤洋子)。

北本市石戸宿 ◇3月17日午前9時過ぎ、北本自然観察公園に『しらこぼと』4月号を届けにいったところ、あずま屋の前の湿地でクイナ1羽、ずっと出ていた。傍のアシ原でミソサザイ1羽、地鳴きと姿を確認(榎本秀和)。

行田市さきたま古墳公園 ◇4月16日午前6時45分、センダイムシクイ1羽、桜の木で鳴きながら盛んに食事していました(逸見嶮)。

川越市南古谷 ◇3月15日午後1時30分頃、水田の上空をサシバが旋回、チョウゲンボウがつかかかっていった(鈴木紀雄)。

川越市新河岸川 ◇4月13日、オシドリ♀1羽、ヨシガモ♂1羽、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、タシギ、カワセミ、ツグミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ他。川崎橋でイワツバメが巣作り中。朝の散歩で楽しみました(藤掛保司)。

坂戸市多和目 ◇3月28日、城山と田んぼの林縁でガビチョウ♂♀各1羽、♂♀別々の場所で行動し、盛んに鳴き交わしていた。ウグイスの鳴きまねもしているように聞こえた。4月5日現在も同所に居ついています。4月4日、田んぼでコチドリ2羽、1羽は、肩羽、翼が白い部分白化の個体で5時間程いました。その後、カラスが降りてきて飛び去った(増尾隆)。

坂戸市城山 ◇4月10日、城山の林縁でトラツグミ1羽、当地では、数年ぶりの観察記録です(増尾隆)。



バン(菱沼一充)

上福岡市駒林 ◇4月7日、駒林少年サッカー場駐車場でアオゲラ♂1羽(yosik.yam)。

深谷市仙元山 ◇3月21日、マヒワ約15羽、ルリビタキ♀、ジョウビタキ、アオゲラ、アカゲラ、ツバメ、シロハラ、ビンズイ、カシラダカ他計30種。昨日いたというトラツグミには会えなかったが、久々にいろいろ出てくれた(新井巖)。

渡良瀬遊水地 ◇3月24日午後3時以降、鷹見台手前左に入った池の湿地でツルシギ1羽。周りの木でコチョウゲンボウ♂2羽。その他チュウヒ3羽、ハイイロチュウヒ♀2羽、ノスリ1羽、アシ原を舞っていた(鈴木紀雄)。

小川町 ◇4月2日、槻川周辺でオシドリ2つがい、マヒワ約20羽、ノスリ1羽、ツミ1羽。急に暖かくなり初夏を思わせる中、野山を散策中の意外な発見に大喜び!(松井昭吾)。

秩父市羊山公園 ◇4月8日、オオルリ♂、マヒワ50羽以上、ベニマシコ♂1羽♀1羽。4月9日、ベニマシコ。4月11日、クロツグミがさえずっていた(山岸昭治)。

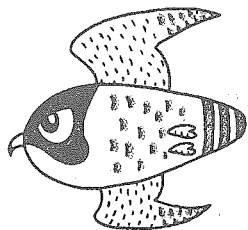
表紙の写真

ヨタカ(ヨタカ目ヨタカ科ヨタカ属)

世界では約70種が記録され温帯・熱帯に広く分布している。日本では1種(*Caprimulgus indicus*)のみが分布する。九州以北では夏鳥、伊豆諸島や南西諸島では旅鳥である。名前は一般にもよく知られているが、なかなかその姿には出会えない。

この写真はこの5月、新潟県粟島で撮影したもので、鳥行者一同、発見者に大いに感謝したものである。文・写真 山部直喜(三郷市)

行事あんない



(何森 要)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月2日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:40 発で「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野（安）、永野（京）、山野、樋口

見どころ：「カッコウが鳴くと晴れ」。この言い伝え通りになることを祈ります。ヨシゴイは今年も来てくれるでしょうか？ バン、カイツブリ、カルガモの子育ては順調でしょうか？

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：6月2日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園行き 8:30 発、または東川口駅北口行き 8:38 発に乗車にて「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤（芳）、工藤、倉林、若林、吉岡（洋）、新井（勇）

見どころ：身近にいる鳥たちとのふれあいでかけてみませんか。都心に近い差間ですが、目の前には鳥たちの世界が、広がっています。初めての方、初心者

の方大歓迎です。鳥見仲間たちが民家園でお待ちしています。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月9日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：中里、和田、森本、倉崎、高橋、後藤、藤田、栗原、大澤

見どころ：オオヨシキリの合唱団が元気よく歌っています。遠くではカッコウが鳴き、明戸堰では水鳥たちが待っています。鳥たちは今、子育てに追われ忙しいときです。親子づれをそっと覗かせてもらいましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月15日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、小菅、新部

見どころ：見沼たんぼを歩くと片柳の台地の

向こう、緑の木々と大きな空の間に、ワールドカップの会場が見えます。サッカーが世界を結ぶように、鳥たちも世界と見沼たんぼをつなげています。そんなことも考えながら、ゆっくり鳥見を楽しみたいものです。

羽生市・羽生市水郷公園探鳥会

期日：6月23日（日）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後バスで現地へ。または午前9時30分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部7:54→久喜8:08→羽生8:28着。またはJR宇都宮線大宮7:39→久喜7:58にて、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：中里、和田、田村、宮下、四分一

見どころ：梅雨の季節です。たんぼの稲もしっかりと根を張りました。青々と茂った樹木もその美しさを見せ、誇らしげに揺れています。カッコウの声を聞きながら、夏の鳥を探してみましよう。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月23日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8:13→坂戸にて越生線乗り換え8:42発。または寄居7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗り換え。JR川越線大宮7:35→川越にて東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久保田、志村、増尾、佐藤（壮）、池永、藤沢、杉原、山田（義）

見どころ：高麗川もやっと今までのコースに復帰しました。カヌーや釣り、バーベキューを楽しむ人たちに負けずに、カッコウの声を聞き、定番のカワセミ、セキレイたちを見ながらゆっくりと歩きましょう。

上尾市・八枝神社探鳥会（夕方）

期日：6月29日（土）

集合：午後6時、八枝神社境内。

交通：JR大宮駅西口、東武バス8番乗り場から平方行き17:08発にて終点下車。またはJR高崎線上尾駅西口、東武バス6番乗り場から平方行き17:20発にて終点下車。

解散：午後7時30分ごろ。

担当：大坂、阿久沢、立岩

見どころ：蒸し暑い今日この頃、神社の大ケヤキの下で少し早い夕涼みです。毎年のことですっかりおなじみですが、是非お出かけください。

注意：蚊の多いところですよ。防虫スプレーがあると便利です。

支部総会のご案内

日時：6月30日（日）

午後1時 受付開始

午後1時30分～2時30分 記念講演

午後2時30分～4時30分 総会

会場：さいたま市民会館うらわ705集会室

交通：浦和駅西口から県庁通りを県庁に向かって西進、埼玉会館の角を右折、玉蔵院境内を通り抜けた先の左側。駅から歩いて約8分。

記念講演：本部からの来賓による講演を予定。詳細未定。当日会場ですべてわかるお楽しみ？

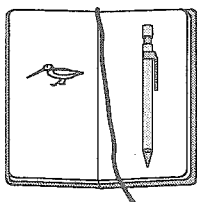
総会議題：支部規約の改正、平成13年度事業報告と決算報告、平成14年度事業計画と予算案、平成14年度役員を選出。

参加資格：支部会員であればどなたでも参加できます。

支部の規約に基づいて昨年度の支部活動を振り返り今年度の予算や方針を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。

総会後には、支部事務局内での懇親会も予定しております。

◆梅雨の季節です。探鳥会は小雨決行。雨具のご用意をお忘れなくお出かけください。



行事報告

1月13日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 43人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ ハヤブサ オオバン タゲリ タシギ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (55種) 久しぶりの鷹見台遠征を猛禽も歓迎してくれた。谷中村史跡北側にもアシ原浄化ゾーンが建設され、道路から離れた遊歩道を初めて通ったところ、ベニマシコの歓迎を受けた。参加者全員が、疎林での野鳥観察を楽しんだ。(橋口長和)

2月11日(月、休) 松伏町 緑の丘公園周辺

参加: 22人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ミコアイサ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 県立緑の丘公園(仮称)造成地での初めての探鳥会。松伏町自然倶楽部の皆さんから公園計画の概要を聞いた。今後20年をかけて造り上げる自然観察公園であり、毎年この時期に探鳥会を続けたい。近所の屋敷林と、古利根川を巡り、暖かい早春を楽しんだ。(橋口長和)

2月14日(木) 戸田市 彩湖

参加: 40人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) よい天気に恵まれて、遠く雪の富士を見ながら歩く。池で、ミコアイサ、バン、オオバンを見ながら湖畔に出る。釣堀横の草原で、カシラダカ、アオジ、ジョウビタキ、シメ。平日で、人出は少ない。湖ではヨシガモ♂5♀3、ミコアイサ♂1等々。終わってみればタカ類が1種もでていなかった。(倉林宗太郎)

2月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14人

新井浩、伊藤泰一郎、海老原教子、海老原美夫、江浪功、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、成瀬慶一、原田譲、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、百瀬修

2月17日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 22人 天気: 曇

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ キンクロハジロ ミコアイサ トビ ノスリ チョウゲンボウ シロチドリ タゲリ ハマシギ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ セッカ ホオジロ コホオアカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) スタート

してすぐノスリが何度も勇姿を見せてくれ、牧草地ではなんとコホオアカが出現。最後は、ヨシガモ、オカヨシガモなどカモの勢ぞろい。ミコアイサのきれいな雄もみんなで見つけた。(北川慎一)

2月17日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加:44人 天気:曇

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ハイタカ コジュケイ キジバト アオゲラ コゲラ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 鳥影も鳴き声もない中、最初に出てくれたのがシロハラ。全員がじっくり見ることができた。でも長沼にはオシドリはもちろんカモはゼロ。驚いた。代わりに久しぶりにハイタカが上空を飛び、これも全員が見ることができたのが救いだった。急遽コースを変更して栗谷沼へ。ここにもカモはゼロ。カイツブリが1羽というさびしさ。でも、ここで何とアオゲラが、飛ぶこともなく、動き回ることもなく、梢に。全員が感激の観察!! うれしかった。しかも、鳥合わせの最中には、ピフーとウソの声。中断して、これまた全員で観察。最後にシメが芝生に出て、ウソでシメた探鳥会だった。(内藤義雄)

2月17日(日) さいたま市 三室地区

参加:77人 天気:曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キジ クイナ バン イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス (35種) 下見の時はいつも心配。終わればにっこり。探鳥会はいつもスリルやドラマがある。今日は代用水のキセキレイ、斜面林のシロハラ、見沼たんぼのキジ、みんなドラマを作ってくれた。ボーイスカウトの下部組織ビーバー隊17名参加でにぎやかだった。(楠見邦博)

2月23日(土) 羽生市 水郷公園

参加:14人 天気:晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ チュウヒ バン タゲリ イソシギ セグロカモメ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) スタートして間もなく、池の中でカルガモの群れに混じってオシドリ♂が出てくれた。まるで第1回目の開催を祝ってくれているようだったが、列が前に進まなくて困った。湿地ではタゲリを堪能できた。途中、日光男体山、白根山の雄姿に見とれる。風が強かったが、少人数でのんびり探鳥会だった。(中里裕一)

2月23日(土) 東松山市 物見山

参加:33人 天気:晴

カワウ ノスリ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ ルリビタキ ジョウビタキ トラツグミ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ ベニマシコ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 先ず市民の森でカラの混群に遭遇するが、尾根伝いに鳥影が全くない。谷津田で冬のゲスト、ベニマシコ、カシラダカ、トラツグミ、樹木にアオゲラ、岩殿観音では口笛軽やかにウソが出現。参加者全員で堪能する。花粉が気になる物見山の初春だった。(島田恵司)



これでもノスリ (池内輝明)

連絡帳

●世界最大のバードウォッチングイベント

(財)日本野鳥の会と NTT-ME は、「第7回 NTT-ME ワールドバードカウント」を、2001年10月の1ヵ月間、全世界でいっせいに開催しました。世界73カ国、102,989人から、6,403種の野鳥情報が、インターネットやファックスで寄せられ、日本からの報告数は、世界第2位の多さでした。

NTT-ME では、毎年報告された種数に比例した寄付金(1種1,000円、上限500万円)をバードライフ・インターナショナル(本部イギリス)に寄付します。今年は上限額の500万円。その一部は『アジア版レッドデータブック』に記載されている野鳥保護のための基金「アジア野鳥基金」に寄付されました。

報告をした支部事務局に送られる記念品『アジア版レッドデータブック』CD-ROMが、埼玉県支部にも送られてきました。

●会員の普及活動

ご報告がだいぶ遅くなってしまいましたが、昨年6月21日(木)に春日部市立谷原中学校で開催された体験学習講座「バードウォッチング」では、生徒25名に対して、橋口長和・松井昭吾・中島康夫・高文子の4名が指導しました。

今年の4月20日(土)、さいたま市文蔵公民館主催で開催された彩湖親子探鳥会には、17名が参加、倉林宗太郎・百瀬修・尾崎甲四郎の3名が指導しました。

●6月の事務局 土曜と日曜の予定

1日(土) 研究部会議、普及部会議。
同日 7月号編集作業(今までは第2土曜日
にずらすこともありましたが、編集を第1

土曜日、校正を第2土曜日、袋づめを第3土曜日に、当分固定してみます)。

8日(土) 7月号校正。
15日(土) 7月号袋づめの会。
16日(日) 役員会。

●会員数は

5月1日現在2,676人です。

活動報告

4月13日(土) 校正作業(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司、山田義郎)。
4月21日(日) 役員会議(司会:海老原美夫、各部の報告・行事予定変更・決算/予算/事業報告/事業計画の作成・新役員候補に関する話し合い・その他)。
4月22日(月) 5月号発送(倉林宗太郎)。
4月23日(火) 監事として本部事務局での常務会に出席(海老原美夫)。
4月27日(土) 連休前に、6月号の仮編集作業。

編集後記

連休前に仮編集しておいたので、安心して遊ぶことができた。5月6日にゆとりをもって編集作業。それが終わったあとの軽く一杯で、連休終了。明日から仕事。(海)

自宅近く、団地横の貯水池にカワセミがいる。小魚を採ってどこかに運んでいる。繁殖しているのだろう。場所は多分武蔵野線操車場跡地内の盛土あたりで。餌場と巣が遠く離れているのは、現代人を見る思いだ。(山部直喜)

マレーシアに行って来ました。サイチョウとかゴシキドリとか、いかにも熱帯!という感じのド派手な鳥がいろいろ登場して、楽しめました。この季節の暑さは日本の真夏程度。暑さに強い方には、おすすめの探鳥地です。(小林みどり)

しらこぼと 2002年6月号(第218号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社